

# CLOMA

企業連携が生み出す新たなイノベーション

注意) 本資料記載の数字等は大きな戦略を決めるためにCLOMAにてマクロな視点で超概算したものです。  
ご理解の上にて、複写利用等の際には事前にCLOMAまでご連絡をお願いします。

資料 4

Confidential  
until 9999.12.31  
20251222  
農水プラ循環TF  
CLOMA南部

## プラ資源循環の取り組み

Circular 30by30

中期目標 2030年までに30%再生材利用

- ・CLOMAは、国が進める再生材の利用拡大に野心的に取り組んでいく方針です※
- ・政府には、頑張ったものが報われることを示し、業界のムーブメントに繋げてもらうことを期待します
- ・再生材利用を積極てきに進めるフロントランナー企業・団体への財政支援を希望します

※日本石鹼洗剤工業会・日本化粧品工業会も同じ方向性

CLOMA 南部博美

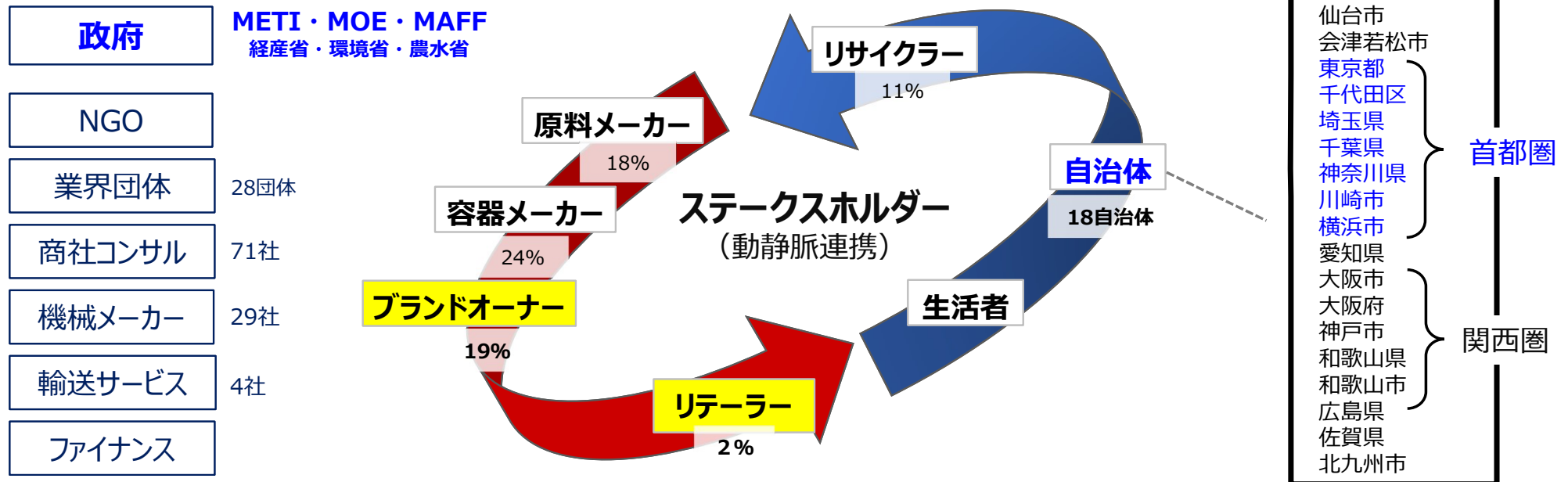
# CLOMA 概要

設立 **2019年1月18日**  
会長 **澤田 道隆** (花王株式会社・前会長)  
会員 **478社・団体** 2025.12.1現在



## 【 Mission 】

**プラスチック資源循環を加速**する事により  
**海洋に流出するプラスチックごみのゼロ化**  
**メインスコップ：容器包装プラスチック**



経済産業省のサポートで設立した国内最大級のプラ資源循環団体

# CLOMA 幹事企業 31社・団体

## 再生プラ需要企業 9 社

### 【食品】

日清食品HD株式会社  
味の素株式会社  
株式会社ニッポン  
サントリーHD株式会社

### 【小売り】

株式会社セブン&アイHD  
イオン株式会社

### 【石けん洗剤・日用品】

花王株式会社  
ライオン株式会社  
サラヤ株式会社

プラ使用量  
38万t  
(飲料PET含)

プラ使用量  
7万t  
(飲料PET含)

## 再生プラ供給企業

### 【ケミカルリサイクル】

三菱ケミカル株式会社  
住友化学株式会社

### 【マテリアルリサイクル】

ヴェオリア・ジェネッツ株式会社  
アマタ株式会社

## 【容器包装】

大日本印刷株式会社  
TOPPAN株式会社  
東洋製罐GHD株式会社  
株式会社エフピコ

## 【商社】

三井物産株式会社  
豊田通商株式会社

## 【その他】

株式会社カネカ  
日本製紙株式会社  
王子ホールディングス株式会社  
ザ・バック株式会社  
全日本印刷工業組合連合会  
帝人フロンティア株式会社  
日本エヌ・ユー・エス株式会社  
日本パレットレンタル株式会社  
Braskem Netherlands B.V. 日本駐在員事務所  
福助工業株式会社  
レンゴー株式会社  
SAPジャパン株式会社

CLOMA幹事企業では食品・小売りの使用量が約85%です



# CLOMAのプラ使用量インパクト

Confidential  
until 9999.12.31  
20251222  
農水プラ循環TF  
CLOMA南部

## CLOMAプラ利用・幹事企業 9 社

### プラ容器包装利用量調査※1

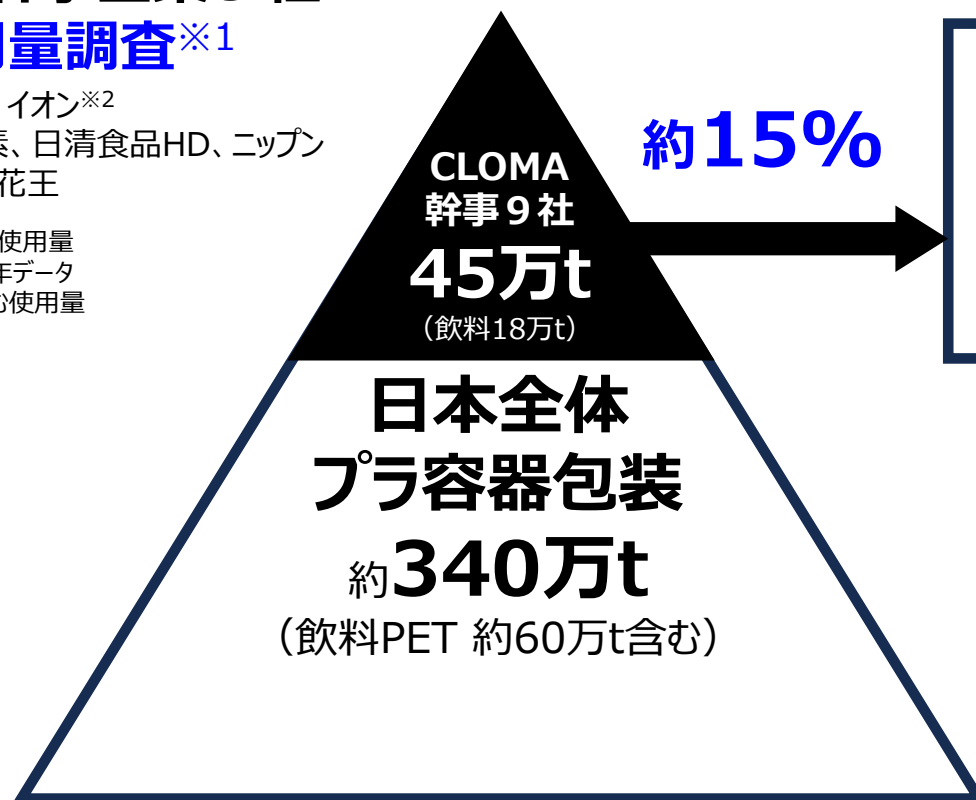
【小 売 り】 セブン&アイHD、イオン※2

【飲料・食品】 サントリー、味の素、日清食品HD、ニッポン

【トイレタリー】 ライオン、サラヤ、花王

※1) 容り法に準ずるプラ容器包装使用量  
国内、2022年または2023年データ

※2) 直販スーパーの総菜容器含む使用量



再生材利用量	
2023年実績	2030年目標
<b>11万t</b> (再生材 約24%)	<b>20万t</b> (再生材 約45%)

許容可能なコストは  
義務化されなければ  
石化プラの1.1倍

幹事 9 社 日本の約15% 2030年 再生材利用目標20万t

# プラ容器包装の業界別利用量

## 日本 容器包装プラの使用量

約340万t

(飲料PET 60万t含む)

CLOMA

幹事企業

需要企業9社

45万t

日本の約15%

一般会員

24万t

(アンケート回答率18%)

計 約80万t

※富士キメラ「2021年 パッケージングマテリアルの現状と将来展望（市場調査レポート）」記載の2020年度集計データに基づいてCLOMA事務局推定

需要側

供給側

約7万t

約38万t

P&G  
ユニリーバ  
小林製薬  
スギHD  
第一工業製薬

資生堂  
コーセー  
P&G  
UL 他

生協、キューピー  
ファミマ、グリコ  
山崎製パン  
ロッテ 他

アサヒ飲料  
伊藤園  
森永、雪印  
ヤクルト 他

石洗工

粧工会

食品関係団体

全清飲

約30万t※

約260万t※

三菱ケミカル  
住友化学  
カネカ  
Rプラスジャパン

ヴェオリア  
エピコ  
アマタ

出光興産/CRJ  
ENEOS  
レゾナック  
三井化学  
BASF Dow

J&T環境  
テラレム  
大栄環境  
TRE  
富山環境 他

日化協

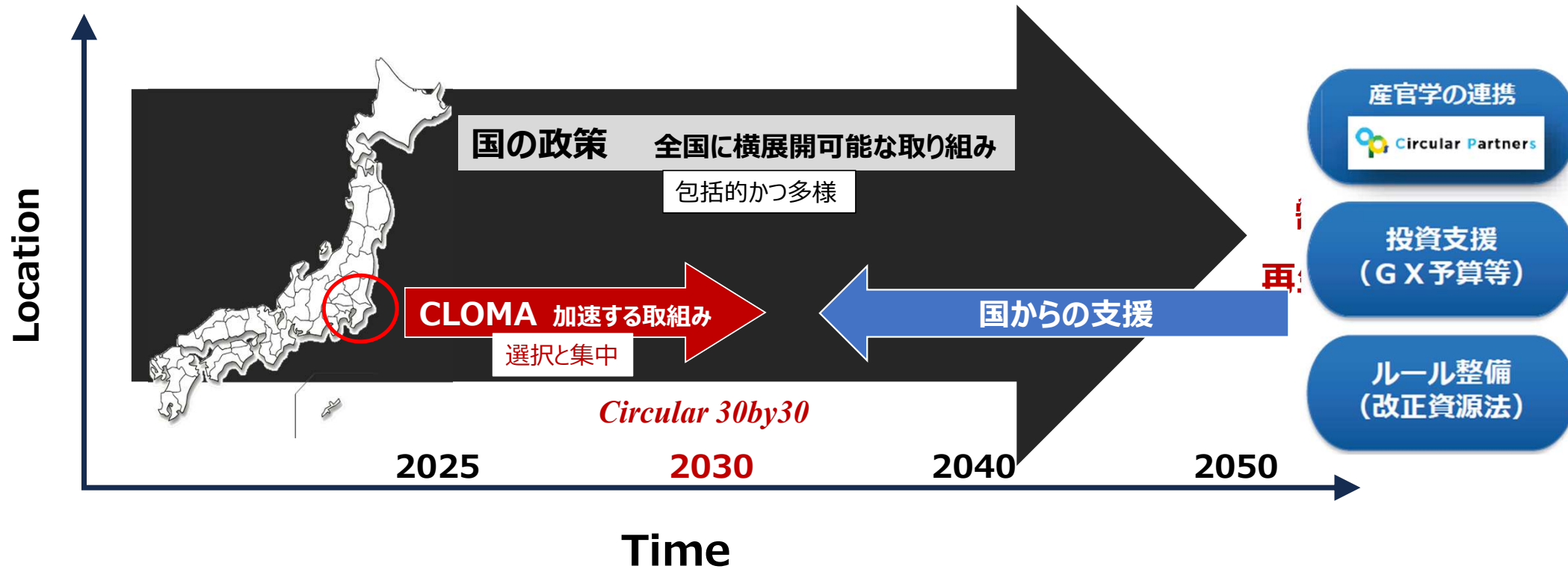
容リ協  
プラ推協

2030年目標  
日化協  
CR 150万t

現状  
MR 70万t  
(容リ品質)

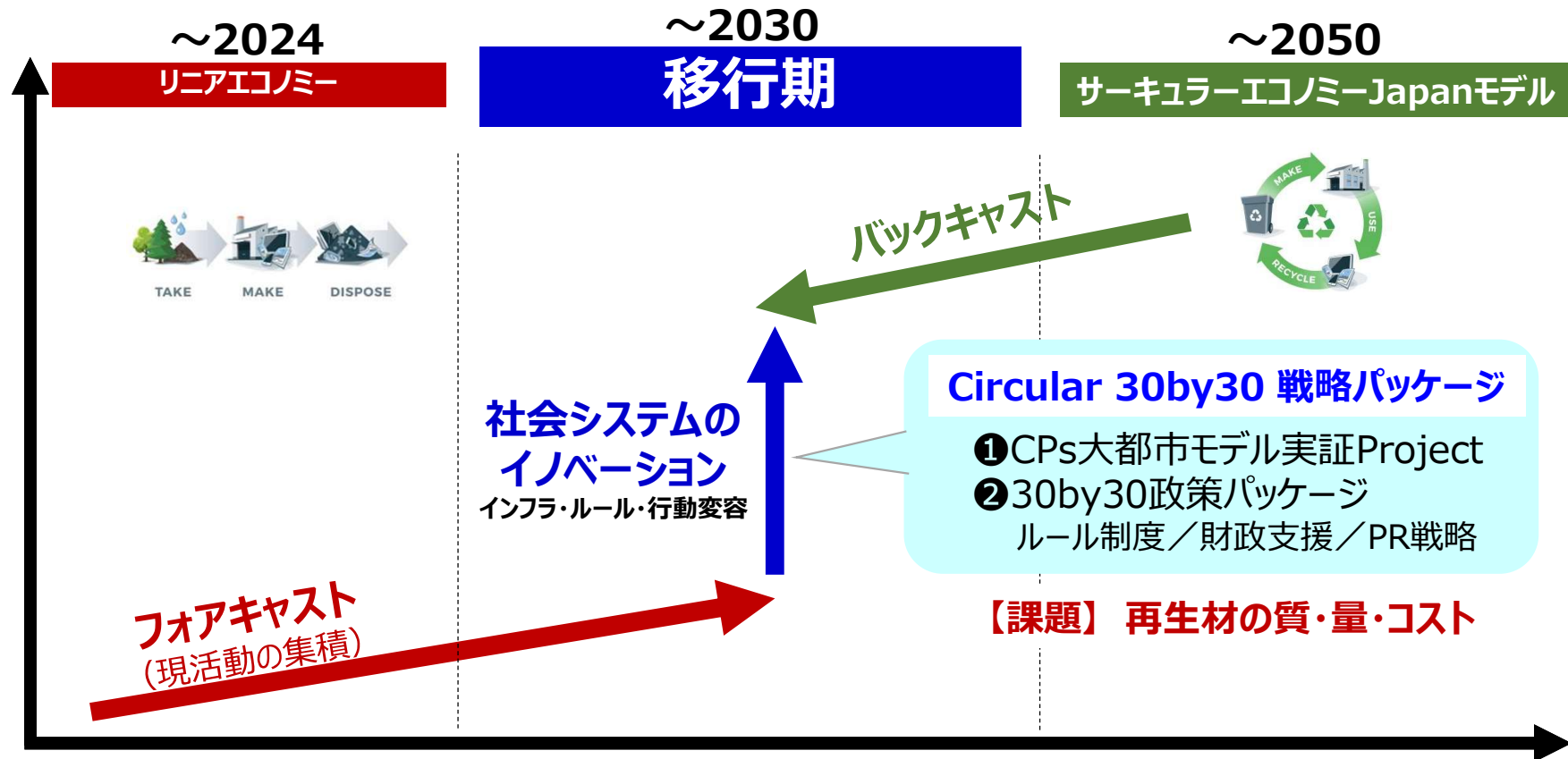
富士キメラのレポートより、 約90%が食品用途と推定される (飲料PET約60万t含む)

# CLOMAの役割



プラ資源循環のフロントランナーとして国に頼りにされる

2030年までに容器包装への再生プラ30%利用



## 社会システムのイノベーションを目指す



# サーキュラーパートナーズCPsの概要

## サーキュラー パートナーズ の目的

- 各主体の個別の取組だけでは、経済合理性を確保できず、サーキュラーエコノミーの実現にも繋がらないことから、ライフサイクル全体での関係主体の連携による取組の拡張が必須。
- そのため、サーキュラーエコノミーに野心的・先駆的に取り組む、国、自治体、大学、企業・業界団体、関係機関・関係団体等の関係主体における有機的な連携を促進することにより、サーキュラーエコノミーについての検討を実施。

## プラ容器包装WG CLOMAがリーダーとして牽引

### ビジョン・ロードマップ 検討WG

今後の日本のサーキュラーエコノミーに関する方向性を定めるため、2030年、2050年を見据えた日本全体のサーキュラーエコノミーの実現に向けたビジョンや中長期ロードマップの策定を目指す。  
また、各製品・各素材別のビジョンや中長期ロードマップの策定も目指す。

12～3月  
ビジョン・ロードマップ  
の策定

### CE情報流通 プラットフォーム構築WG

循環に必要な製品・素材の情報や循環実態の可視化を進めるため、2025年を目途に、データの流通を促す「サーキュラーエコノミー情報流通プラットフォーム」を立ち上げることを目指す。

### 地域循環モデル 構築WG

自治体におけるサーキュラーエコノミーの取組を加速し、サーキュラーエコノミーの社会実装を推進するため、地域の経済圏の特徴に応じた「地域循環モデル（循環経済産業の立地や広域的な資源の循環ネットワークの構築等）」を目指す。

4～26年2月末  
地域循環モデル  
の企画・実証

### その他 (新規検討テーマ等)

動静脈連携、ビジネスモデル、標準化、価値化、技術、新産業・新ビジネス創出等についても順次検討を実施し、産官学連携によるサーキュラーエコノミーの実現を目指す。

## CPsプラ容器包装WG の リーダー





## WG概要

- **コアメンバー**（**CLOMA**：サントリー、三井物産、テラレム、資源循環システムズ、T-CEC）
- **有識者**（神奈川大・経済学部 山本教授／専門：環境経済学）

※敬称省略

## WGメンバー

サントリーホールディングス(株)	三菱ケミカル(株)	東洋製罐グループホールディングス(株)
(株)セブン&アイ・ホールディングス	住友化学(株)	メビウスパッケージング(株)
日清食品ホールディングス(株)	ケミカルリサイクルジャパン（出光興産）	TOPPAN(株)
花王(株)	J&T環境（株）	ZACROS(株) 旧：藤森工業
ライオン(株)	TREホールディングス	富士フイルムホールディングス(株)
小林製薬(株)	(株)レゾナック・ホールディングス	東洋インキ(株)
日本生活協同組合連合会	テラレムグループ(株)	(株)三義漆器店
スギホールディングス(株)	資源循環システムズ株式会社	(公財) 東京都環境公社
三井物産	華興(株)	プラスチック循環利用協会
三井住友信託銀行	アミタホールディングス株式会社	(株)digglue
神奈川大学	丸喜産業(株)	エックス都市研究所
東京都	エビス紙料(株)	(株)DCTA

需要

供給

容器・印刷

商社

投資

アカデミア

自治体

団体

コンサル

## 【プラ協メンバー】

(株)富山環境整備
ライオン(株)
ウツミリサイクルシステムズ
山崎製パン(株)
C F P (株)
日清食品(株)
トベ商事 (株)
ニチレイ(株)
EEFA
食品産業センター
いその(株)
TOPPAN(株)
ZACROS(株)
大日本印刷(株)
岡山市
ヴェオリア・ジェネッツ(株)
千葉県市原市
PSジャパン (株)
茨城県環境部

資源循環サプライチェーンが構築できるメンバーで構成

## 【目標】食品用途にも使用可能な“プラ容器の水平循環システム”構築

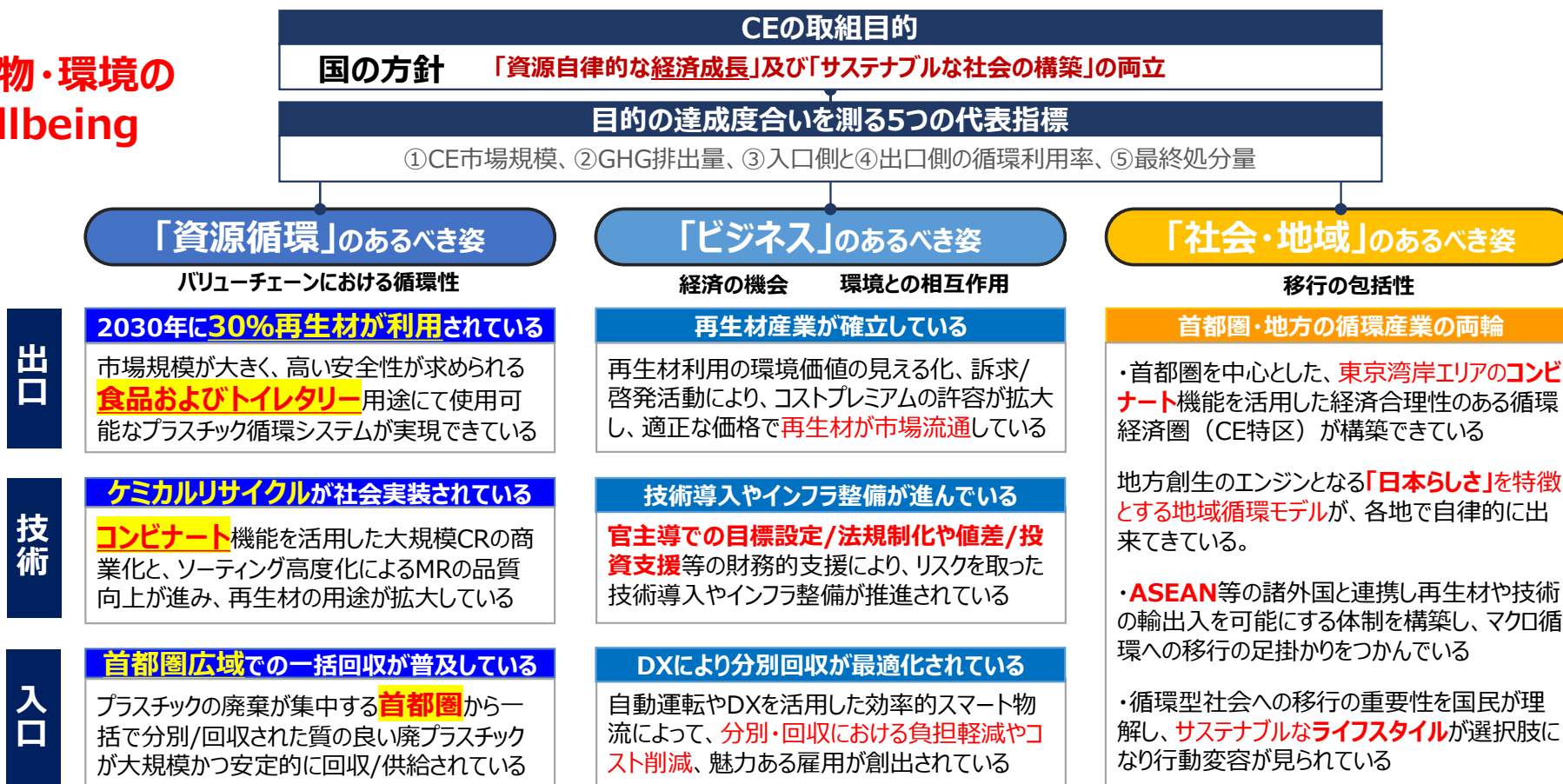
- ・2030年までに再生材30%を利用する “Circular 30by30”
- ・2025年度内にケミカルリサイクル再生材の国内利用を開始する
- ・プラスチック資源循環と脱炭素の同時実現に貢献する



※※経産省・資源循環小委員会プラマテリアルフロー解剖図を基に、CLOMA事務局による概算

## CLOMAの総力を結集してプラ資源循環を牽引

人・生物・環境の  
Wellbeing

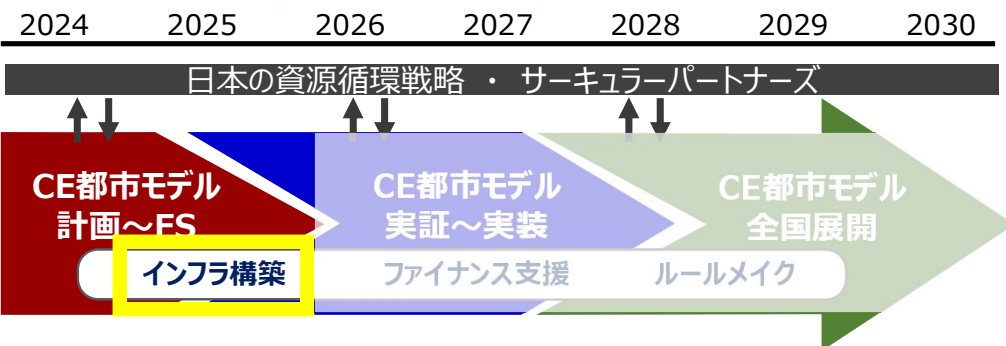


首都圏広域にて CRが実装され 30%再生材が利用されている

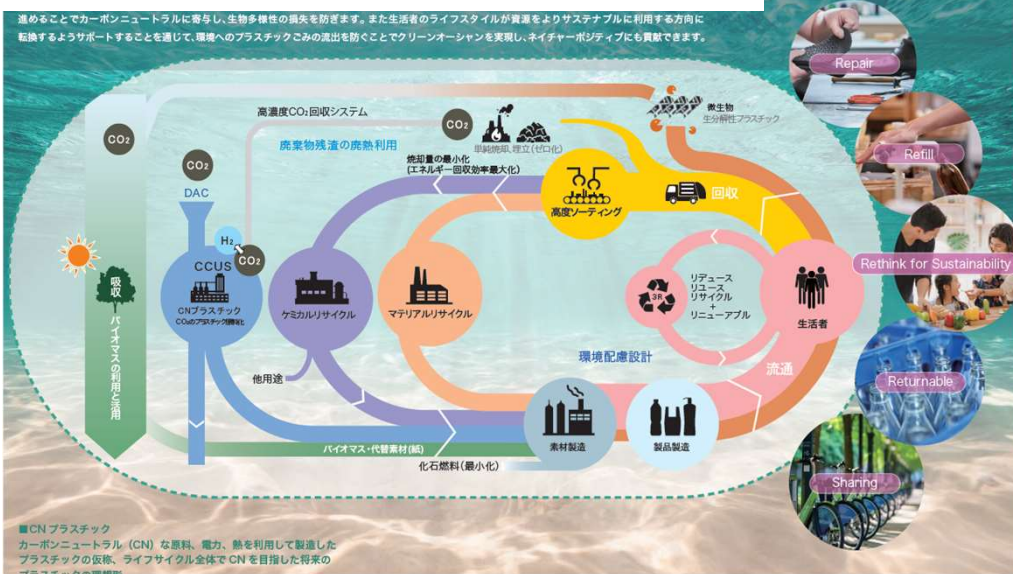


## CLOMA のビジョンとロードマップ

### Circular 30by30 『2030年までに30%再生材を利用する』



### 資源循環を通じて、CN・NPの達成に貢献



## CPsの目指す2030年あるべき姿と課題

### 資源循環

容器包装への再生材の活用が進み、GHG削減にも寄与しており、アジア諸国と連携したの循環ループが形成されている

### ビジネス

グローバル市場において日本のCE型企業のビジネスが先行し、循環型の経済活動によりGHG削減にも貢献している

### 社会・地域

首都圏コンビナートでの再生産業と、地方独自の循環産業の両輪により地方創生と雇用創出に貢献している

### 6つの課題と取り組みの方向性

- 経済を活性化する新需要の拡大**
  - CLOMA企業による再生材の利用目標設定と積極利用
  - 再生利用拡大の為にインセンティブ導入、投資支援の提案
  - 循環型プラ容器包装の基準策定と普及促進
- 新たな需要を満たす供給産業の構築**
  - CLOMA企業による循環型CRの早期実装・再生材供給
  - MRの高品質化(飲料外PET)による水平リサイクル
  - 首都圏オフィス・大型商業施設プラ回収リサイクルの普及拡大
- 国際連携の強化**
  - グローバル資源循環体制の構築、技術・インフラ支援
  - 東アジア近隣諸国との協業と共創による海外循環市場への参入
- CE具体市場の創出**
  - リユース容器のシェアリングBizモデルの普及拡大
  - DXを活用した新たな循環Bizの創出
- 地域の活性化**
  - 首都圏におけるCE都市モデルProjectの具体化
  - 国内循環／雇用創出にむけた実証および人材育成支援
- 消費者への価値訴求**
  - 消費者へのCE価値啓発(PR戦略・・・広報、TVメディア、教育)
  - CE製品の可視化と購入インセンティブ導入提案



# プラスチック容器包装WGの2030年までのロードマップ

- : CLOMA主体の取り組み  
 ■ : 国への提案・要望  
 ➤ : 国との連携による取り組み

凡例 :

構想 導入 拡大



CLOMAチーム	取組施策	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
経済を活性化する 新需要の拡大	再生材の利用促進	● 目標Circular30by30 CLOMA需要企業	使用量・コストの精査	● 再生材の積極利用 評価～試験的利用開始～数%		● 再生材の利用拡大（再生材30%実現） 30%に向けて本格利用開始（企業規模、業態で段階措置）		
		■ インセンティブ導入の提案 CLOMA/国	インセンティブ設計/予算と効果スタディ	■ フロントランナーに試験的導入/効果検証 インセンティブ試験的導入		● 本格導入 移行期間限定でのインセンティブ制度施行（～2035年）		
		➤ 循環型プラ容器包装の基準策定 CLOMA/国	循環性と脱炭素の数値化による分類	➤ 循環型プラ容器包装の導入 付加価値ネーミング 例) E-Package		➤ 普及拡大 トレサビリティとパッケージ化したラベリング（DX読み取り可能）		
新たな需要を満たす 供給産業の構築	情報流通PF構築	CLOMA/国	RMP/CE情報流通PF要件定義への参画	システム開発・導入・改良		情報流通PFを活用したビジネス創出と拡大		
	再生材の供給促進 【首都圏での広域循環】	● 循環型CRの生産～商業運転開始 CLOMA供給企業		● 本格稼働～販売開始		● 新規投資による能力増強		
		鹿島	三菱ケミカル：2万トンの設備稼働		PE/PP生産（日本ポリケム@川崎）			
		千葉	CRJ：2万トンのCR工場建設		PE/PP/PS生産			
		川崎	レゾナック：H <sub>2</sub> /NH <sub>3</sub> 原料（プラ50：都市ガス50）		H <sub>2</sub> /NH <sub>3</sub> 原料（プラ・繊維100） EPC			
		➤ MRの高品質化（選別・精製・脱臭・脱色）		● テスト販売開始		● 本格生産		
		川崎	J&T環境/メビウスPKG エフピコなど 食品トレイの循環拡大（惣菜・弁当などのPETトレイ、PPTトレイなど）	トイレット容器への利用検討（再生材&容器開発） 食品容器の外装材などへの利用検討（再生材&容器開発）		飲料以外のPET容器（洗剤など）のリサイクル		
	支援メニュー整備	➤ 首都圏オフィスビルのプラ回収リサイクル 東京都など	➤ 複数ビルでの実証/国からの支援 官公庁および企業オフィスビル、大型商業施設（約5万トン/年@東京）	● 対象オフィスの大幅拡大 容り法の制度見直し 検討・実施（使い捨て容器有料化など）				
		➤ 首都圏での広域回収 関東圏	➤ 国家戦略特区による検証 プラー一括回収/効率的回収/高度ソーティングセンター	➤ 適用エリアの拡大				
		GX予算、NEDO、GIO等補助事業の検討		GX予算、NEDO、GIO等補助事業の有効活用				

## 1. 事業の目的（概要）

日本国内における動脈事業者が利用可能な再生プラスチックをはじめとする再生材の供給量を大きく拡大していくため、廃棄から再資源化までの工程（分別、回収、運搬、処理）における実証を行い、再生材の回収・再資源化、製造工程へ回す一連の流れの高度化に資するスキーム構築のコスト構造や現状を明らかにし、再生材利活用におけるボトルネックや、ボトルネックを解消するために必要な施策の分析と産官学連携で供給量拡大を実現していくための課題分析等を行う。

## 2. 事業内容

### （1）実証対象及び実証内容

本事業では、再生プラスチックをはじめとする再生材の大規模供給体制の構築を目指し、プラスチック製容器包装を中心とした廃プラスチック等の効率的な再資源化システムを検証する。

### ア）大都市圏での資源循環モデルの検討及び実証 ➡

- イ) 地方都市での資源循環モデルの検討及び実証
- ウ) 中小地域での資源循環モデルの検討及び実証

### 主な実証内容：

- ①人口密集地域における効率的な回収ルートの最適化
- ②高効率処理技術の実証と運用コスト分析
- ③大都市圏内の製造業との連携による再生材の活用モデルの構築

## 3. 事業実施期間

契約締結日（8月末頃）～令和8年2月27日 **約半年**

## 4. 予算規模

**2億3千万円を上限**とする。

# CLOMAは大都市圏での実証（首都圏）

# 経産省CPs実証事業 大都市圏での資源循環モデル

## 主な実証内容：

- ①人口密集地域における効率的な**回収ルートの最適化**
- ②高効率処理技術の**実証と運用コスト分析**
- ③大都市圏内の製造業との連携による**再生材の活用モデル**の構築



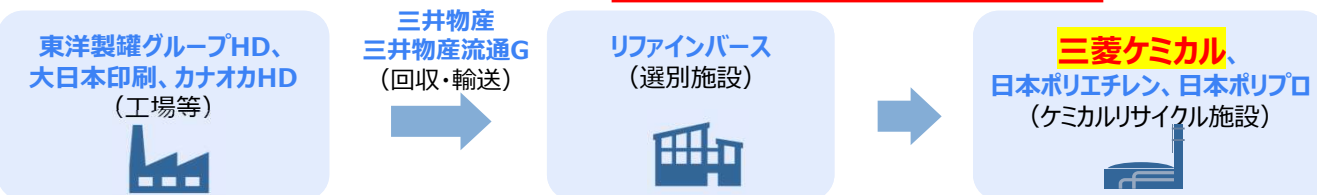
## 3つの実証モデル

事業実施期間 ～令和8年2月27日 約半年  
予算規模 2億3千万円を上限

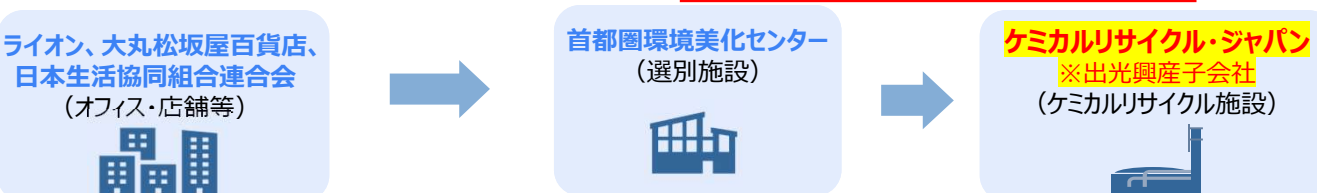
### ポイント

- 回収・運搬・選別・再資源化のステークホルダーが連携し、一貫した回収・リサイクル工程を構築
- 高い人口密度と、大量の廃棄物発生という特性に即して、回収・リサイクル工程ごとに、効率的な資源循環モデルを構築

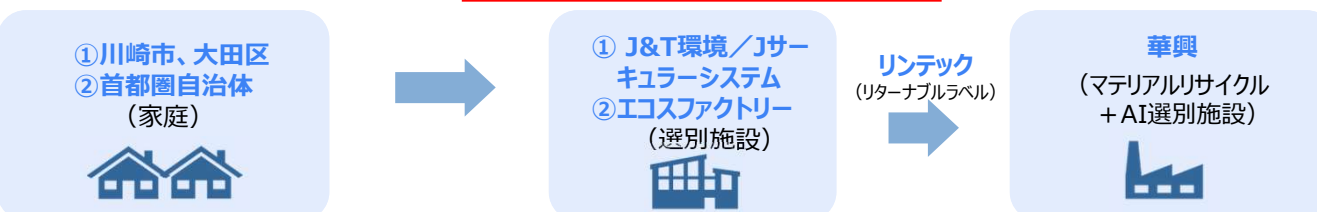
### a) 工場等から発生するプラスチックプラスチック循環資源（**オレフィン樹脂**）のケミカルリサイクル



### b) オフィス・店舗等から排出される事業系プラスチックに含まれる **オレフィン/PS樹脂**のケミカルリサイクル



### c) 家庭から排出される容器プラに含まれる **PETトレイ類**のマテリアルリサイクル

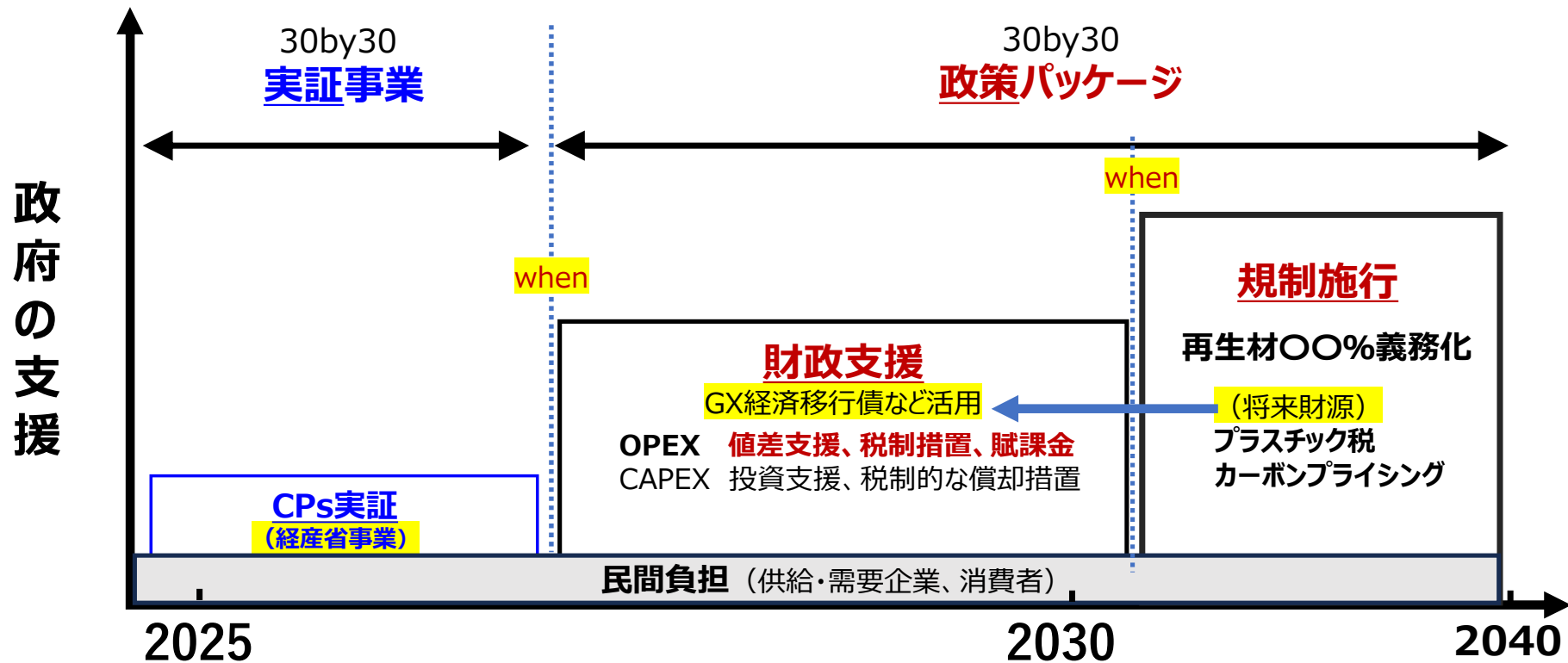




# Circular 30by30 戦略パッケージ

Confidential  
until 9999.12.31  
20251222  
農水プラ循環TF  
CLOMA南部

～ 実証と政策を両輪で進める ～



市場の予見性を高める いつ規制、カネの再配分を実行するか

# 30by30政策パッケージ “財政支援”

Confidential  
until 9999.12.31  
20251222  
農水プラ循環TF  
CLOMA南部

		支援の対象		
		供給企業 (石化企業、リサイクル企業)	利用企業 (小売り、ブランドオーナー)	消費者 再生材商品を購入する消費者
財政支援	<b>価格調整</b> 再生材と石化材の価格差を調整する措置 (例：水素普及における値差支援など)	値差支援	<b>値差支援</b>	再プラ賦課金 (再エネ賦課金の再生プラ版)
	<b>補助金</b> 再生材利用費用の一部を補助する制度	設備投資 ※既に実施済／計画中	<b>容リ・費用免除</b>	ポイント還元
	<b>税制優遇</b> 再生材利用を促進する税制優遇措置 (企業法人税の優遇措置など)	再プラ法人減税	再プラ法人減税	<b>消費減税</b>

再生材の積極利用

**需要喚起**

再生材商品の購入  
(認証)

需要を喚起 することで 再生材市場 を作る

# 資源循環ジャパンモデル

## 【マイナス外部環境】

Threat  
脅威

地政学リスク顕在化  
による資源偏在化

欧州規制による  
調達要件の厳格化



## 【プラス外部環境】

Opportunity  
機会

再生資源の  
国内安定調達  
(経済安全保障)

国内企業による  
産業競争力の強化

食品分野での利用  
による質・量の向上

需要の創出 と 供給強化 に向けた官民投資ができる 制度設計と規制改革

Goal 「資源自律的な経済成長」と「サステナブルな社会の構築」の両立  
人・生物・環境のWellbeing

# CLOMA

企業連携が生み出す新たなイノベーション

## Circular 30by30

中期目標 2030年までに30%再生材利用

- ・CLOMAは、国が進める再生材の利用拡大に野心的に取り組んでいく方針です※
- ・政府には、頑張ったものが報われることを示し、業界のムーブメントに繋げてもらうことを期待します
- ・再生材利用を積極てきに進めるフロントランナー企業・団体への財政支援を希望します

※日本石鹼洗剤工業会・日本化粧品工業会も同じ方向性

CLOMA 南部博美

# 本スライド資料のご利用にあたって

- 資料に使われている写真素材は、著作権や肖像権などに関わるため、二次利用をしないでください。
- 上記の理由により、本資料の情報や素材を加工したり、二次利用したりする場合には、必ず事前に南部まで使用可否の確認をしてください。

## 【連絡先】

グリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス(CLOMA)事務局 南部博美

E-mail: [h-nambu@jemai.or.jp](mailto:h-nambu@jemai.or.jp)